

平成28年度 長野県立歴史館協議会 議事録

1 日 時 平成28年10月7日(金) 13時30分から16時00分まで

2 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 出席者

- 委員（五十音順） 小林正春委員、山口敏男委員、下村征子委員、高澤政江委員、竹内 誠
会長、中村孝子委員、小松芳郎委員、山崎まゆみ委員、湯原儀芳委員
（欠席 中條智子委員）
- 県立歴史館 笹本館長、伊藤副館長、青木学芸部長、原総合情報課長、大竹考古資
料課長、中野文献史料課長、溝口専門主事、西山専門主事、村石専門
主事、文化財・生涯学習課 鈴木担当係長

4 会議に付した事項

- (1) 平成27年度事業実施状況等について
- (2) 平成28年度事業について
- (3) その他

5 協議事項

○開会（事務局）

ただ今から、平成28年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。
会議に先立ちまして、笹本館長から挨拶を申し上げます。

○笹本館長あいさつ

4月1日から館長になりました笹本であります。

県民のためによりよい歴史館になるためにはどうしたらよいか、県の文化向上のために何
ができるか考えているところです。県民に必要とされる館となるよう努力したい。忌憚ない
御意見をいただきたい。本日の協議会では主に2点の審議をお願いいたします。

1点は昨年度の歴史館事業についての評価であります。また2点目は今年度の事業の御意見
をいただきたく思います。

○協議会委員紹介（事務局）

今年度委員の皆様も一部替わられましたので、配付してあります委員名簿により、ご紹介さ
せていただきます。なお本日も都合により欠席された委員は、中條委員であります
（以下委員による自己紹介）

○職員紹介（事務局）

本日の会議に出席している当館職員を紹介させていただきます。（以下職員を紹介）

○会議成立報告（事務局）

ここで会議の成立について報告いたします。お手元の委員名簿のとおり、委員総数は10名

であります。本日は9名の委員の方にご参加いただいておりますので、長野県立歴史館管理規則第4条第3項の規定により会議が成立していることをご報告いたします。
これから会議に入りますが、規定により会長が議長を務めるとされていますので、竹内会長に議長をお願いいたします。

(1) 平成27年度事業実施状況

○議事

議長の竹内です。それでは議事を進めさせていただきます。まず、議事の1を議題とします。
資料1「(1)平成27年度事業実施状況」について事務局より説明願います。

○事務局

主要事業とその目標値について説明いたします。
(以下資料をもとに説明)

○竹内会長

協議事項の「(1)平成27年度事業実施状況等について」の審議に移ります。昨年度1年の実施状況と館の評価を見比べながら、ここでは当協議会の評価を逐次行うこととしたい。
順に従い自己評価を見ていきたい。何かご質問があればその都度出していただきたい。

【館蔵史料調査について】

○竹内会長

館蔵資料の調査の評価BであるがBという評価はどの程度のことを指すのか。

○事務局

ほぼ目標値に達したということでございます。

○小林委員

目標数値が入っていないので達成できたかどうかの評価がしようがない。

速報展について調査の評価指標は、調査の結果展示できるようになったのであれば、評価はAでよいのではないか。

○事務局

この企画展自体の評価および数値については別項目にある。ここは「館蔵資料の調査」に絞って表している。

○竹内会長

書き方・標記が誤解を招くのではないか。

○小林委員

調査活動が完了したということであればBに落とす必要はない。

○湯原委員

ここでは企画展の質を問う観点でも評価するのか。

○竹内会長

企画展の質については別項目でアンケート結果を素材として評価しているので評価は別である。

○下村委員

昨年の秋季展「樹木と人の交渉史」については大変よかったのではないか。Aではないか。

○竹内会長

Aとしたいが。(異議なし)

【文献史料の収集・整理・保存】

○竹内会長

文献史料について、「整理作業の完了」という標記だと全部が整理できたというイメージだ。何を目標としているかという数値を示してほしい。

○事務局

古文書・行政文書の積み残し整理作業が完了したことを示している。

○事務局

行政文書については当館へ受け入れるものをまず確認・選定し、リストを作成するということだが完了しているということである。受け入れについては計画を立てて進めている。

○小松委員

ここには県行政文書の移管数、判別している数、公開できた数を明記しておくべきだろう。収集した点数だけを見ると昨年は少ないのではないか。

○事務局

年によって移管数は変動するのが現状である。今年度は県庁から受け入れるシステムを構築し、運用しているところである。

○小林委員

先ほども述べたが当初の設定値があいまいになっているので評価を付けづらい。原則として設定した目標値が完了すればAではないか。

○小松委員

行政文書とは異なり、古文書は民間から様々な形で入ってくる。その点で行政文書と古文書は異なる評価に整理し直して項目を立てるほうがよい。また館蔵史料のうち未整理のもの、また昨年度新たに外から入ってきた数値を明記してほしい。

○竹内会長

分かりにくい点もあるが、評価は原案どおりBでよいか。（異議なし）

【考古資料の保存処理】

○竹内会長

考古資料の保存処理について。目標にはたどり着かなかったのがCである。明快であるがいかがか。

○下村委員

人員、時間など保存処理に時間が掛かるのではないか。

○小林委員

年間設定が木製品 1000 点なので達成数が 500 点では評価は下がる。

○笹本館長

予算がつくことを前提に予定して計画したが、残念ながらつかなかったのがやむを得ずこのような結果となった。

○事務局

予算要求はしている。4 人いれば 4000 点処理できる計画である。保存処理に対応する人員がいなければ処理ができない。

○竹内会長

数値達成から評価はCでよろしいか。（異議なし）

【館設定研究テーマ】

○竹内会長

続いて館設定研究テーマである。入場者をここで書くのがよいかは別として、予定通りの成果がでたということでBであるがいかかが。共同研究を他機関と行うことは素晴らしい。

○笹本館長

現在長野県絵図地図研究会が本日より館蔵絵図・地図の写真撮影を始めた。城下町研究会は各市町村との連携で持続的に研究を進めている。

○竹内会長

冬季展「地図の明治維新」は評価がよいようであるが、人数は入ったのか。

○事務局

冬季展を行う時期としてはよく入ったのではないか。

○小林委員

やはりこの項目に入場者数を入れると、何がこの企画展の目標だったのかがわからなくなる。28年度の分がここに入っていると評価できない。何をやる予定で何ができたのかという観点でないと評価のしようがない。

○事務局

共同研究会の中では、県内の関係する市町村教育委員会と何をどこまで研究するかという大枠が27年度までにできており、連携ができていと認識している。

○竹内会長

江戸東京博物館では担当者は3年で企画展を計画する。研究に参加した方々との連携ができていれば、たとえ3年前であっても評価は可能である。この評価表では書き方が分かりづらいが、連携ができていということなので評価はBでよいか。（異議なし）

【史資料の保存等に関する市町村への協力・支援】

○竹内会長

依頼件数のうち22件を実施したということか。

○事務局

日程調整が付いた案件を実施したということである。従って実質100%という事である。

○竹内会長

ではAでよいか。（異議なし）

【史資料保存活用講習会】

○竹内会長

講習会の開催がCとあるが、なぜか。

○事務局

3回計画したが、うち2回が昨年度講師の都合で実施できなかったからである。実施できなかった災害レスキューなどの内容を今年度は実施する計画で進めている。

○竹内会長

災害レスキューはとても大切だ。単独ではできない。従って他館や諸機関と協力しながら行うことは重要なことで、昨年出来なかったことはCで止むなしですね。（異議なし）

【考古資料保存処理講習会】

○竹内会長

Bでよいか。（異議なし）

【常設展・企画展・個別研究・共同研究】

○竹内会長

続いて常設展示・企画展示についてご意見はあるか。

○高澤委員

観覧者数が平成 23 年度よりもだいぶ下回っている。この間広報の仕方などで何か工夫してきたことがあれば教えてほしい。

○事務局

観覧者数は全体的に落ちてきている。企画展は比較的健闘している。常設展示は学校見学が横ばいだが生徒数は減少してきている。リピーターが意外と少ない。広告や市内全戸回覧板などをまわすなど工夫をしているがこのような状況である。

○高澤委員

かつて行われた企画展で、「この展示品は 2 週間後におみせします」という宣伝をやったことがある。あれはよかったと思う。

○湯原委員

平成 23 年度を基準にしている理由はなにか。落ち込んだ年なのか。

○竹内会長

これはこの自己評価の五カ年計画のスタートの年だからである。
アンケートでは「長野県民の 1945」はとてもよかったようであるが。

○小林委員

評価の仕方であるが、ほかの項目での説明と同じ表現で評価をすると混乱する。1 項目 1 評価が原則であるので工夫してほしい。企画展ごと逐次列記するかたちで標記したらよいのではないか。

○竹内会長

企画展が一括されているが、個別の企画展毎に評価したいところだが。がんばっていると思うが。

○小林委員

入館者数値だと C かもしれないが、満足度は高いので B でよいのではないか。

○山崎委員

私は当館でボランティアをしているが、県外の方がよい評価をしている。孫が社会見学に当館を利用し、さらに深く知りたくなったということで一緒に来館された方もいる。一方でまだ当館のことを知らない方もいるので、広報を工夫したらどうか。とくにシニアの方への呼びかけをしたらよいのではないか。

○竹内会長

企画展は C、個別研究は A でいいのではないか。
共同研究は、上記項目と重複しているのでどちらかと統一してほしい。評価 B で仕方ないが、これは次年度に評価項目の書き方を整理するという条件である。

【古文書講座・考古学講座・やさしい信濃の歴史講座】

○竹内会長

古文書講座は B ということだが。

○事務局

受講人数は一定程度いる。新しい人をどうやって参加してもらえるかが課題で工夫をしている

ところである。

○竹内会長

考古学講座はAでどうか。満足度の項目だが、数字的には9割という表現はわかりにくい。ほかに倣って%で統一してほしい。

やさしい信濃の歴史講座もよいですね。

講座についてはそれぞれ原案通りB・A・Aでいいか。（異議なし）

【企画展等講演会】

○竹内会長

企画展講演会はどうか。原案通りでよいか。

どなたにやってもらったか、ということで名前を記していただければイメージが湧きやすい。

○小林委員

これは数字で判断できるもので、目標以上であればAではないか。

○竹内会長

Aでよいのではないか。（異議なし）

【大人の遠足】

○竹内会長

大人の遠足についてはいかがか。

○小林委員

数値目標がないので評価できない。

○事務局

当初想定した数字が達成できたのでBと評価している。

○湯原委員

主催者側の立場からいうと、参加受講生の声はおおむねよかったと判断している。

○竹内会長

Aでよいのではないか。（異議なし）

【ブックレット刊行】

○竹内会長

当館のブックレットができるたびに、私はすばらしいと感じている。難しいことを優しく書くことは大変重要である。学校教育のカリキュラムが分かっている方がこの館に多くいることが強みだと感心している。

○小林委員

年1冊刊行する予定で1冊刊行できているのでAで評価してよい。

○竹内会長

Aでよいか。（異議なし）

【関係機関との連携】

○竹内会長

これははじめての企画ですか。

○事務局

継続事業である。

○竹内会長

アンケート結果がほしいところだ。

○小林委員

博物館との連携とホームページがらみは項目を分けて評価した方がよい。
協議会のホームページが開設できなかつたとすればこれはCでは。

○事務局

ホームページは予算がつかかなかつたからである。

○竹内会長

Bでよいか。（異議なし）

【出前巡回講座】

○竹内会長

他地域への積極的な参加はよい取り組みである。
Aでよいのではないか。

○小林委員

内容から判断して評価はAでいいのだろうが、やはり数字がなければ外部評価ができない。
この項目だけでなく全体を通じて評価表についてはそのような印象を受ける。数値が出せないものと出せるものとの、評価の仕方をわけていただきたい。

【学校支援】

○竹内会長

見学シート4種類というのはどういうことか。

○事務局

学校見学で活用している。見学時間や学習内容によって作っている。

○中村委員

学校現場で当館を利用した教職員の意見を聞くと、このシートは多く活用されていることがうかがえる。

○竹内会長

Aでよいか。（異議なし）

【学校見学時の展示解説】

○竹内会長

学校見学のボランティア解説だが、評価表は分かりづらい。延べ人数でどれだけいるのか、事前講習はどれだけ行われているか。

46回という実施回数だけではなく、そのほかの情報がないと分かりづらい。

○事務局

ボランティアの数は解説、体験、保存処理あわせて60名程度。このうち解説ボランティアは8名である。

体験は勾玉づくりなどの体験学習で参加してもらう。人が足りない保存処理にも参加していただいている。

数値目標がないのは、昨年度から本格的にスタートしたのが学校向け解説ボランティアである。まずはやってみようということである。

○竹内会長

ボランティアは地域の方が多いのか。

○事務局

地元だけでなく、松本など離れたところからも参加がある。県民参加のボランティアである。

○竹内会長

ボランティアの交通費は。

○事務局

無償でやっていただいている。

○竹内会長

ボランティアの研修はどうしているか。

○事務局

研修を4回程度行い、一定の基準でチェック体制をとっている。

○竹内会長

Aでいいか。（異議なし）

【学校見学時のバックヤード探検】

○竹内会長

学校見学バックヤード探検受け入れ100%はよい。

○山口委員

質問だがこれはすべての学校を対象に行っているのか、またどのような体制で行っているか。

○事務局

県外の学校見学が近年増えている。原則として全学校に展示解説の職員を付ける。従って、学校同士が時間帯で重ならないように苦労している。

○事務局

遺物収蔵庫などのバックヤード見学は30名30分程度の条件でやっているが、場合によっては時間を短縮したり順番など調整しながら工夫している。収蔵庫なので自由にご覧くださいとはできない。

○笹本館長

温湿度管理をしている古文書・行政文書書庫・特別収蔵庫などは見学スペースには入れていない。職員の解説は子どもたちに問い掛けしながら工夫しながら解説をおこなっている。

○竹内会長

Aでよいだろう。（異議なし）

【研修・出前講座】

○竹内会長

Aでいいか。（異議なし）

【利用促進】

○竹内会長

B評価だがAでもいいのではないか。

中南信の利用状況がどのような結果につながっているか知りたいところ。

○小林委員

昨年この席で意見を述べたが、入館者増への取り組みは当館単独でできることではない。県教育委員会全体の課題として捉えるべきである。また信濃教育会への投げかけもしたらどうだろうか。

○竹内会長

Aでよいか。（異議なし）

【史資料の閲覧】

○竹内会長

企画展など前項と重なる部分があるので表の形式を検討してほしい。
地図のWEB公開はどうなっているのか

○笹本館長

本日から絵図の撮影が始まった。また県の防災課と連携しながら公開活用を考えていく。

○竹内会長

Bでいいか。（異議なし）

【ホームページの充実・マスコミへの周知】

○竹内会長

信濃毎日新聞などのコラムはよい。

できるだけテレビ・ラジオなどの出演情報数の把握に努めるべきである。私は露出度といっているが、どれだけ取り上げられたかというのをアピールすることも必要。またブログの力も重要。広告手段は変わって来ている。

○中村委員

有線放送の歴史館の番組は全県的なものなのか。せっかく地元の有線などで製作した番組をほかに提供したらどうか。

○笹本館長

有線放送との連携協定を結び全県へ発信していくことを今年から始めている。

○竹内会長

双方ともAでいいか。（異議なし）

【体験イベント・親子映画会・古文書愛好会】

○竹内会長

親子映画会は目標以上の数値を達成している。県庁出前の勾玉はどうか。目標値がないので評価しにくい。

○事務局

目標数は設定していない。親子映画会では日本昔話を放映している。

○竹内会長

古文書講座と古文書愛好会は違うのか。

○事務局

古文書講座を受講されている方で組織された愛好会の活動は、当館所蔵古文書の解説と発表、成果の公開、また当館所蔵文書の目録作成にも参加していただく自主活動である。

○竹内会長

いずれもAでよいでしょう。（異議なし）

【運営サポートボランティア】

○竹内会長

サポートボランティアについて。

○事務局

当初目標を設定していなかった。

○竹内会長

「県民が参画した運営」という表現が気になる。主体はあくまで職員である。人数は延べ60名だからまだ小規模である。Aでよいでしょうか。（異議なし）

【利用者アンケート】

○竹内会長

利用者アンケートの評価がCだが。

○小林委員

「評価の充実を図る」という表現であるが、結果として評価の材料として使うことはあるが、本来、館を充実するためにアンケートは利用するものである。評価を充実させるという書き方はおかしいのではないか。

○竹内会長

アンケートは何のためにとるのかということをお考えいただくということで、Cと評価しますか。（異議なし）

（2）平成28年度県立歴史館の活動計画

○竹内会長

それでは協議事項「（2）平成28年度 県立歴史館の活動計画（目標）」の審議に移ります。事務局の説明をお願いします。

○事務局

今年度の計画は昨年度の活動の反省をいかしながら、精査しブラッシュアップさせていきたい。課題は歴史館の知名度が低いことであるが、「発信する歴史館」を今年度の柱にして努力していきたい。

（以下資料をもとに説明）

○竹内会長

さきほどの評価の検討の際に出された課題は修正していただくということを前提として、それとは別の観点で御意見を頂戴したい。どこからでも結構です。

○湯原委員

企画展は素晴らしいと思いますが、展示スペースが限られている。広げることはできないか。

○事務局

企画展示スペースは物理的には限られている。今年度あらたに企画展示室脇のスペースを展示コーナーとして広げ写真パネルを飾るなど活用している。また廊下を利用したり、常設展示室を利用しながら、工夫をしているところである。

○笹本館長

面積的には限られているが、講演会などを充実させ内容を深めたり、常設展示を活用したりするようにしている。

○下村委員

お金のかからない方法、つまりケーブルテレビや有線放送をうまく利用していただければと思う。

○笹本館長

私も館長として今年度から広告等というつもりで県立歴史館を様々な場所でアピールしている。職員も県内各地で広報に努めているところである。

○山口委員

隣地にある千曲市立森將軍塚古墳館としましても、歴史館が工夫された取り組みをしているの

で大勢小学生が来館し、あわせて古墳館へも来てくれている。しかし一般の来館者は、古墳が目に入るせいか、先に古墳館を訪れる方が多いようである。県立歴史館のことを知らない方が多いので、その場合はできるだけお勧めするようにしている。お互いに宣伝し合うことが大切だと思う。中南信の知名度が低いという印象だ。遠くても行ってみたいという館になるとよい。

○竹内会長

県立歴史館の活動計画はこれで了承としてよろしいでしょうか。（異議なし）

（3）その他

○竹内会長

最後に何か意見等があればお出してください。

○小林委員

感想ですが予算確保できないと評価できないものは、目標設定や評価の仕方を工夫した方がよい。

また来館した学校による利用者評価も総合評価に加えてほしい。

○竹内会長

以上でよろしいでしょうか。

それでは議事終了としたい。議長を退任する。協力ありがとうございました。

○笹本館長

竹内会長をはじめ委員の皆様方、本日はありがとうございました。皆様のご尽力でここまでくることができました。

評価は何を以て評価するのかという観点をもう一度精査し見直していきたい。また数や量だけではなく質をもっと大事にしていきたい。周知のための広報も質を高くしていきたいと考えている。

本協議会の今期の任期は10月17日で満了となります。誠にありがとうございました。

委員の皆様方には心より感謝申し上げ御礼の挨拶と致します。

○竹内会長

私もこれで委員を退任となる。20年の間ありがとうございました。

江戸東京博物館館長もこの6月30日に退任し名誉館長となった。

信州大学に昭和42年に赴任してから今日まで、『信濃史料』や『長野県政史』など長野県に関わらせていただいた。この館についても市川健夫初代館長に呼んでいただいて評価委員をやらせていただいたことからの関係である。この会の塚本学初代協議会長が勇退されたあと、私がこの席に座らせていただいた。今回退かせていただくことになった。その間に皆様方のお力添えがあって、当館も素晴らしい博物館にどんどん変化してきた。今年からは笹本新館長が就任された。きっと特色ある博物館づくりをされるであろう。心配なく引退することができる。歴史館職員、委員の皆様にはこの間ご助力いただいたことを感謝し退任の挨拶としたい。

（退任の挨拶）

○閉会（事務局）

以上をもちまして協議会を閉会いたします。